

「国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」を開催

企画調整室

関東森林管理局では、「開かれた国民の森林」の実現に向け、国有林野等が所在する地域の市町村長との意見・情報交換を目的とした会議を毎年開催しています。

今年度は、去る11月14日（水）に各地域の代表市町村長等14名と林野庁から百崎管理課長、吉村特用林産対策室長、関東森林管理局から岡田局長、木下次長及び関係森林管理署長等ほか関係者が出席し、東京都江



挨拶する岡田局長



市町村長との意見交換

東区の木材会館で開催しました。会議の冒頭に、岡田局長より、国有林野事業の管理経営等に対するご支援へのお礼や森林・林業再生に向けた関東森林管理局の取組の紹介等の挨拶を行いました。続いて、林野庁より新たな森林計画制度や平成25年度林野庁関係予算概算要求等の中央情勢について、関東森林管理局からは、管内の森林共同施業団地やフォレスト・研修、森林の除染等及び海岸林等の復旧などの取組について説明を行いました。

各市町村長等からは、森林管理・環境保全直接支払制度に係る森林整備や公共建築物の木造化などの木材利用の促進、木質バイオマス発電に係る木材供給、近年深刻化している鳥獣被害への対策、森林の除染など、多岐にわたる発言があり、これらの考え方等について林野庁・関東森林管理局から説明するなど活発な議論がなされました。

最後に木下次長より、各市町村長等よりいただいた貴重なご意見・要望等について、関係森林管理署等と連携して期待に応えるよう努めていくこと、また、森林・林業の再生に向け、民有林・国有林の連携を一層強化していくことを表明して、会議を終了しました。

関東森林管理局では、伺ったご意見・要望等を踏まえ、引き続き、開かれた「国民の森林」として、国民視点にたった国有林野の管理経営に努めて参ります。

森林官能力向上研修を実施

「民国連携に向けたスキルアップを目指して」

去る10月30日～11月2日及び11月6日～9日の2回にわたり、今年度から新たに計画された「森林官能力向上研修」が実施されました。

本研修のねらいは、「森林・林業の再生に向けた新たな取組への対応と、国有林野事業の一般会計化に対応し得る人材を育成するため、特に民国連携の推進や民有林支援に繋がる知識の習得と技術の向上を図る」とこととされています。

今回の受講対象者は、現場に携わ



池田計画部長の講義

る森林官を中心に署等係長や係員を含むとされており、その職務や経験も多岐にわたる方々が集まりました。カリキュラム構成は、大きく分けて前半の講義形式と後半のグループ演習とし、3泊4日の日程で行われました。

初日、池田計画部長からは「森林・林業再生プラン」を基に森林計画制

度の見直しや各種取組の再確認及び
 民国連携に重要な役割を果たすフ
 レスターの育成についてなど、現下
 の林政一般に関する講義が行われ、
 続いて民有林行政を学ぶことを目的
 に、地元群馬県の取組について石井
 林政課長より講義をいただきました。

2日目午前中は、より深く民有林
 を知るべく群馬県森林組合連合会の
 高橋指導課長より、主に提案型集約
 化施業の取組について、また森林施
 業プランナー(注)として活動して
 いる利根町森林組合の吉野氏からは、
 実際の民有林施業等についてインタ
 ビュー形式による講義が行われまし
 た。

(注)「森林施業プランナー」とは、
 森林所有者に代わって、市町村森林
 整備計画におけるゾーニングに基づ
 いた森林経営計画を作成し、森林施
 業の内容や事業収支を示した施業提
 案書を作成して施業を受託し、現場
 技術者への作業内容の指示から実行
 管理までを行う者。(森林施業プラ
 ンナー協会より抜粋)

これらに引き続き、林野庁が力を
 入れている民国連携の取組の一つ
 「森林共同施業団地」の趣旨や期待
 される効果、設定状況と事例紹介等
 について計画課山形流域管理指導官
 より講義を受けました。

ここまでの講義を踏まえて、いよ

いよ2日目午後からは5名程度の班
 に分かれてグループ演習に入ってい
 きます。

演習テーマは「森林共同施業団地
 設定を柱とした構想を対外的に提案
 する」というものであり、参加型体
 験学習を通しての能力向上を目指し
 ました。

具体的には民有林・国有林が混在
 し面的な広がりのある地域を題材に、
 民国一体となった路網整備と間伐施
 業の長期的な計画・構想を策定し、
 地域の関係者に対して理解・協力を
 得るためのプレゼンテーションを行
 う、という流れです。

作業に入る前に、基礎知識として
 林業専用道を主とした路網整備や作
 業システムの考え方、間伐材の販売



グループ討議

戦略等に関する技術的な解説を販売
 課松本企画官より受けた後、班内で
 協力して構想を練り、エクセルを用
 いた収支計算や発表用図面とパワー



プレゼンテーション

ポイントの作成を進めていきました。
 またこの研修では、山本企画官・高
 田専門官により“伝える技術”の向
 上を目指して「コミュニケーション
 とプレゼンテーション」に関する講
 義と実践も行いました。

最終日の発表は、相手を地域の民
 有林関係者と仮想してプレゼンテ
 ーションを行い、質疑応答も“役”に
 なりきって行うというロールプレ
 イ形式で行いました。あまり体験し
 ことのない研修スタイルには新鮮味
 もあり、“良い場数”になったので



研修生

はないでしょうか。
 この演習では技術的な知見を学ぶ
 こともさることながら、自分自身で
 考えたことを話し合い、意見をまと
 め上げて伝える、という過程の中で
 様々な発見があり、そのことも業務
 に活かされるのではないかと思います。

今後も、出来れば中身の伝わりや
 すい研修名に衣替えして、内容を充
 実させながらこのような研修を継続
 していくことは、民国連携を通じて
 地域の活性化を実現し、森林・林業
 の再生に繋がる有意義な取組である
 と考えます。
 (森林技術普及専門官 高田悟)